

★ 9/13 ホクト文化会館にて開催 ★
信州あいサポートフォーラム2013

参加と平等
 県推協新聞
 第399号
 2013年9月28日
 毎月 1回 28日発行
 郵便振替口座/00580
 -9-2534・障県協
 購読料1部 250円
 購読料(1年)3,000円
 (会員の購読料は会費に含む)



「信州あいサポートフォーラム2013」
 この信州あいサポート・・・予想はつくけれども何かなと思いますよね。「障害を知り、共に生きる・・・まず、知ることからはじめよう」という趣旨を県民に広めていくことを目的として県が初めて開催するフォーラムの予定です。
 九月十三日(金)、ホクト文化ホールで開催されました。これは、国の障害者基本法第一条である目的、第三条にある地域社会における共生等、そして第八条にある国民の責務からくるもので県が「しあわせ信州」を積極的にすすめるという意思を示すものと思います。県推協も多くの障害者団体とともに後援に名を連ねています。
 あいサポート運動は鳥取県が最初(二〇〇九年十一月)です。その後、島根県、広島県、奈良県と広がり、長野県

発行 長野県障害者運動推進協議会
 発行所 〒三八一〇〇三四
 長野市高田中村二七六一八
 長野県労働会館一階
 電話 〇二六(二六四)五二五六
 FAX 〇二六(二六四)五二五六
 松丸道男

は五番目となります。全国的にみますと長野県は早いのです。県民であれば、どなたでもサポーターになれます。障害を理解して無理をせず、ひとりひとりが、できる事から始めましょうというこのようです。
 内容はまず、アルプス学園メロディーベラーズによるプレコンサートから始まりました。みなさん本当に一生懸命で、でも楽しそうに演奏されていました。指導される方々も一生懸命でした。続いて県健康福祉部長からの挨拶があり、後で知事からのビデオメッセージもありました。
 基調講演は石井めぐみさんで「やさしい街 やさしい人」と題してお話でした。石井めぐみさんは、女優さんです。早稲田大学教育学部を卒業され一九七九年に映画「夜叉ケ池」でデビュー、その後は多くのテレビドラマ、バラエティーで活躍、結婚後、重い障害のある長男(優斗君)の成長を綴った「笑ってよ、ゆっぴい」を執

紙面の案内

- ◆P1~P2 「信州あいサポートフォーラム2013」参加報告
- ◆P3~P4 交通運賃割引制度の充実に向けアンケート調査報告
- ◆P4 聴覚障害者の就労と雇用を考える集い 実施報告
- ◆P5~P6 絆の会 法人化10周年記念公演 実施報告
- ◆P8;お知らせコーナー (このお知らせコーナーへの情報をお願い致します。)



筆、それがドキュメンタリー番組となつて大きな反響をよびました。ご存知の方が多くかと思えます。ご長男は、残念ながら一九九七年九月に亡くなられました。優斗君から多くの事を教えられたと言います。

もっと多くの人に知ってほしいと車椅子で街へ出掛けた。誰も声をかけてくれない・・・人は知らない事に対して臆病、知らないこと近づけない、ほんのチョッと知ってもらうだけでコミュニケーションがとれる、テレビを観てほしい、それだけで関心につながる、そう思ってテレビに働きかけたが断られた。でも、優斗君をビデオに撮り続けた・・・その後、フジテレビが話を聞いてくれた。放映後、一万通の手紙がきた。

障害児は一生懸命生きている。“生きる”事は大変。優斗君といることが楽しかった。

思いもかけない喜びを教えてください。ある時、できないと思っていた指しゃぶりをしていた。本当に嬉しかった。渋谷へ出た。みんなが“ゆっぴい!”と声をかけてくれた。人は私たちにどう声がけしているのかわからないのだ。助けてほしい事はたくさん!ほんの一瞬立ち止まって目を合わせてほしい、あいサポートのバッチを見せられてもいい(この日、参加者に“あいサポート”バッチが配

られました)、助けてほしいとお願いできる。

日本はバリアフリーが遅れている。自分が生まれた地域で生きていけない現状、東京国立市は他の街より障害者が多く街に出ている。街に出やすいのだ。自治体がほんのチョッと考えを変えるだけで変わる。障害者は健常者に、健常者は障害者にパワーの交換ができる。子どもは親のために我慢する。苦しい治療も我慢できる。

自分の命をどう生きるかが大事、長い短い関係ない、命の大切さを息子から教えてもらった。ひとりひとりが命の大切さを考え伝えてほしい、今日はその最初の一步にしてほしい、日本の中心長野から“あいサポート”を広めてほしい。

休憩後、パネルディスカッションがありました。コーディネーターは福岡寿さん(社会福祉法人高水福祉会常務理事)、パネリストは石井めぐみさん、尾崎秀樹さん(イオンリテール株北陸信越カンパニー人事教育部部長)、新保文彦さん(日本自閉症協会副会長・県自閉症協会会長)、清水剛一さん(県健康福祉部長)でした。

企業からは、雇用問題で店舗が難しいが、不の解消努力をソフト面、ハード面からしている。従業員が共に働く意識が不可欠、業務・作業の単純化、標準化されたマニュアル。客対応として従業員には人権保障の

意識と研修・サービス助手士二級の取得・認知症サポーターの育成・案内係の腕章を課している。

親の立場からは、息子さんは知的と自閉症の障害があるので、先ずは服装に気をつけることから、積み重ねで今は自分でコーディネートできるようにになった。毎日働く所があることは重要、一日過ごす所がある。

自尊心を育て自己肯定ができる、できるという達成感、受け入れられるという安心感、発達障害はイメージ障害、人と関わる力と想像力を育てたい、人生は長い・・・生活のリズム・余暇を過ごせる(やる)ことがある、極上の暇つぶし、人生はフリータイム)父親の力は育児に必要。行政には一〇〇%やってもらう。我慢しないで!!!これに対して県は言い続ける事で実現する。親たちの意見希望で。行政は予算ありきが良い。親と担当者が直接話すことが必要と答えました。

企業より・・・平和が前提、平和だから人と関わる、障害者を雇うことについて、必要で雇用するのか、当初は迷い、不満が多かったので法律を守らなきゃと思っていた、受け入れ側の意識改革ときめ細かな作業マニュアルを工夫することで作業効果があがる、ひとりひとりの特性を生かす作業工程・・・高価なものもつくれる。

親より・・・今日もいたという喜

び、ゆっくり発達していくのを見る事ができる。

地域の理解が重要、理解の難しさ、グループホームをつくるこわさ、地域に出よう!親は連れて出よう!親の理解がないケースが多い。親が賛成することが大事。家でなくてもいい、グループホーム、ケアホームを多く作る。

工夫、配慮は何か?みてもらうこと、知ってもらうこと、助けてほしい時は目をみる。

目で何を訴えているのかをみのがさない目をもってほしい。



交通運賃割引制度の充実 に向けアンケート調査

報告者 ; 原 金二
(県推協 副代表)

交通運賃割引制度の充実に 向けアンケート調査

—結果をいかし、社会参加に
つなげるために—

第九回長野県障がい者の地域交通網を考える会(代表・山本悦夫)が九月六日に県社会福祉総合センターで開催され、「交通機関の利用状況についてのアンケート調査」の結果が発表されました。主に県内の精神障がい者関係施設に通う仲間を対象にした初めての調査で、一三四施設などから八二〇名の回答が寄せられました。

◆割引実施は社会参加を促す

「運賃割引が実施されたら外出・社会参加の回数は増えますか?」という問いに、五三%の仲

間が「増える」と答えています。また、「運賃割引が実施されたら通所回数を増やしますか?」という問いに、二五%が「増やす」と答えています。公的な交通機関が十分に整備されていない県内では、通所時の交通手段の調査で「JR、私鉄、バス」は全体の二六%に過ぎません。この様な状況の中で二五%は予想を超えた高率です。

自由記述欄の「〇〇(私鉄名省略)は、運賃が高すぎる、一カ月定期一万二九〇〇円」「(通所施設で働いて得る)工賃は一月月七千円、馬鹿にしている」との訴えには説得力があります。

その他、「実家に帰る回数が増やせる」「家族への負担を減らせる」など切実な願いがあります。

運賃割引の拡充は、精神障がい者の社会参加の機会を増やし、働く支えにもなります。社会や人のコミュニケーションが増え、前向きに生きる意欲が高まり、病氣そのものを軽減したり克服したりする大切な契機となります。

◆通所に関する助成金に地域間格差

市町村によって、通所等に関して助成金(通所奨励費等)が出る所と出ない所があります。地域間格差が大きく、北信の施設では五%が「ある」と回答しているのに対し、南信では、一四%に過ぎません。このような実態はこの調

査を通じ、初めて明らかになりました。

「県や市町村はもちろん、多くの仲間や県民にも知っていただし、理解をひろげることが大切」と話し合われました。

◆JRの理解と割引実施の実現を

私たちの運動により、しなの鉄道が割引を実施してくれました。しかし、JRと相乗りする区間は割引対象外となっているために手続きが煩雑で、実際には利用しづらくなっています。記述欄にも、この不合理の解消を訴える声がたくさんありました。基本的にはJRの問題ですので、全国の仲間とともに、地方からの働きかけが必要です。新幹線の割引実現に対する要望もたくさん寄せられています。

通院の際「付き添いがある」と回答した仲間が二四%います。私たちも今回の調査で改めて、精神障がい者の特性の一つとして認識を深めました。電車やバス等、限られた空間の中に、一定期間、一人でいることは不安や緊張を強いられます。場合によっては症状の悪化を招きかねません。「付き添いがある」ことが、どれだけ心強い「か」と体験者は語ります。肢体や知的障がい者の重度の方の場合、公的機関の利用の際、本人割引のほかには付き添い者も割引に

なっています。精神障がい者も全く同じ状況であることを広く理解していただくことが必要です。

◆私鉄、バス、タクシーなどにも

私鉄、バス、タクシーなどにも理解をひろげ、割引制度の拡大・充実を促進する活動が求められています。とりわけ、経営・経済状況から運賃の高い私鉄各社への要望が寄せられています。過疎地を中心に、電車とバスの接続が悪い、バスの本数が少なく不便、通院にはタクシーを使わざるを得ないなどの実態も寄せられています。障がい者、高齢者が安心して暮らせる郷土をどのように築き維持していくのか、県・市町村の大切な課題です。

前回、当会で実施した「タクシー事業者の社会貢献活動に関する実態調査の結果から、割引してくれる会社があつて良かった」との喜びの声と同時に、さらなる拡充を望む回答がありました。

さらに、高速バス等の割引制度拡充、交通機関のバリアフリー化の推進などの要望がありました。

◆ガソリンへの補助や免許取得に関する課題

公的機関の整備が遅れている長野県では、移動手段の多くは自家用車です。通所の交通手段では三〇%が、通院時の交通手段には三四%が自家用車と回答し、どちらも最も多くなっています。公的機関

関の運賃割引同様、高騰するガソリンへの補助を望む声が大きいことが調査から改めてわかりました。本人の所得や工賃の実態では、社会参加どころか、通院や通所で精一杯です。家族に大きな負担をかけていることに対する不安や自責の声もたくさん聴かれます。

さらに、今回の検討の中で浮かび上がってきたことは、免許の取得や更新に関する課題です。ある仲間には、「薬を飲んでる」「精神障がい」と正直に告げたら「まるで犯罪者扱いされた」と訴えています。「公安や警察当局に対し、人権を尊重した、また障がいの特性を理解した誠意ある対応を要請してほしい」との要望が出されています。

◆就労、医療、福祉、生活上の様々な願いが

自由記述欄には、就労、医療、福祉、生活上の切実な願いが寄せられています。「精神障がい者への理解を拡げて：」「就労の場を：」「身体や知的障害と同等の福祉医療制度を、福祉医療の窓口無料化を：」「学生無年金者問題の解消を：」「：」会社での陰湿な嫌がらせに困っています。私が手を出せば強制入院になります。薬で何とか気持ちを整えています。：」などの悩みから、次のような前向きな提案まで書かれています。

「運賃割引制度などの実現によ

JRの理解と割引実施の実現を訴えます。



て、社会参加の機会が増え、病気が改善され、将来は福祉医療費などが少なくなるのでは：」

会としては、この調査結果を様々な場で公表し、「仲間や関係者の中で共有し、県民全体に理解をひろげ、国や市町村、関係諸機関に働きかけ、安心して生活できる地域社会をつくってこよう」「できることを少しずつ協力して進めて行こう」と確認しました。

聴覚障害者の就労と雇用を考える集い」を開催

報告者 ; 県聴覚障害者協会

去る八月三十一日に社会福祉法人長野県聴覚障害者協会と長野県聴覚障害者情報センターとの共催による「聴覚障害者の就労と雇用を考える集い」を開催しました。

当日の午前は、県内在任の聴覚障害者の労働状況をするための報告として、長野労働局によるハローワークでの求職件数や相談件数などの状況、長野県ろう学校による卒業後の進路状況や就職のための実習体験などの様子、共催の当協会と情報センターからはこの集いのために実施した県内在任の聴覚障害者を対象とした労働状況のアンケート調査結果を報告しました。そしてその県内の状況をふ

まえた上で、全日本ろうあ連盟の福祉・労働委員長の松本正志氏による講演「聞こえない人が地域で安心して働くために」で、聴覚障害者の特性、全国の聴覚障害者団体の労働問題への取組状況などが報告されました。

午後は、県内の就労・雇用に関わる関係機関の関係者による懇談会をおこないました。

労働局、ハローワークの障害者担当や手話協力員、相談支援センター、ろう学校、ろうあ相談員、当協会や情報センターの現場での聴覚障害者の相談に関わる担当者が出席し、各現場での課題や今後の展開などについて意見交換をしました。

この集いでは、特に聴覚障害者の特性が社会全般に正しく理解されていない(筆談をすればOK、聞こえないから安全面で不安など)ことが浮き彫りとなり、それが職域拡大や定着などの課題に深くつながっています。今後、労働・教育・福祉関係の様々な機関との連携をとっていくことの重要性を改めて実感しましたが、その第一歩となる「集い」になったのではと思います。

来年6月に「第62回全国ろうあ者大会」が 長野市で開かれる！

一般財団法人全日本ろうあ連盟主催の「第62年全国ろうあ者大会」が来年6月11日から16日に長野市のビッグハット、若里市民文化ホール他で開かれます。全国から聴覚障害者、手話サークル会員、通訳者約2500名が集い、写真コンテスト、評議員会、分科会、前夜祭、最終日の式典、アトラクション等、多彩な催しを行います。

この大会は1972年（昭和47年）に長野市で第21回全国ろうあ者大会が開かれて以来、42年ぶりの開催となります。（当時は参加者約2000名）

この大会開催の目的は「全国の聴覚障害者と聴覚障害者の福祉にかかわる人々が一堂に会し、手を携えつつ、聴覚障害者の社会的地位の向上及び社会福祉の増進を目指して研鑽と交流を深め、よって『完全参加と平等』の理念によるノーマライゼーションの社会、聴覚障害者を含む障害者全体の生活と福祉が保障される豊かな社会の建設に寄与することを目的とする」としています。

大会開催地である長野県聴覚障害者協会は実行委員会（井出萬成実行委員長）を昨年の春に立ち上げ、連日連夜、大会成功に向けて準備活動を行っています。

資金面ではかなり厳しく、行政に対する助成金の申請、広告、寄付集め等をして頑張っております。

読者、関係者の皆様のご声援をよろしくお願いします。

社会福祉法人長野県聴覚障害者協会 気付
第62回全国ろうあ者大会実行委員会
連絡先 TEL 026-295-3612
FAX 026-295-3610

9月21日 絆の会 法人化10周年記念公演実施 ～松井朝子のパントマイム～

法人化10周年記念公演
～絆の会の取り組み～

社会福祉法人絆の会法人化10周年（のりんどう会通算二十五周年）記念公演を二〇一三年九月二十一日長野市若里市民文化ホールにて行った。二十五年前、長野県精神保健福祉センター（当時県精神衛生センター）の支援を受けて精神に障害のある人の支援をするために絆の会の前身りんどう会（任意団体）が始まり、職員はまだおらず、十数名のボランティアと数名の利用者が喫茶店の運営を担ってスタートした。十年前に社会福祉法人の資産要件の根拠が大幅に下がったことで社会福祉法人格を取得し、現在十二の事業所（グループホーム含む）に約二五〇名の利用者とその家族、職員数五〇名余り、ボランティア一〇〇名余、の大所帯に広がった。

私たちの願いは障害のある人が地域でその人らしく暮らしていけるよう支援をすることで、地域社会全体が弱者にやさしい、誰もが暮らしやすい世の中になって欲しい、そういう世の中をつくっていくことである。

今回十周年記念公演は大変予算規模も大きく、大がかりなものになったが、それは「松井朝子のパントマイム」により、より多くの日頃障害に関わらない方々へも私たちのメッセージを届けたかったからだ。

障害のある人と市民が触れ合う機会に、障害理解を広げる機会に、そして絆の会が自分たちの結集した力で地域に発信していく機会にしたいと考えた。記念事業でパントマイムを中心においた理由は以下の絆の会の会報に掲載した文で感じ取っていただけだと思ふ。

1997年NHK番組で、初めて松井朝子さんを見た。言葉でうまく意見が伝わらない経験をしている一人の少女が、学校を中退してまでもその道を究めたいと思えるものに出会った感動をその画面は美しさと迫力で伝えていた。「言葉が無くてもあんなに気持ちが伝わってくる！」その少女は世界的パントマイミスト、マルセル・マルソーに魅せられる。私はコミュニケーションに苦手意識を持つ作業所の面々を思い出していた。手帳に「パントマイミスト 松井朝子 着物マイム 研究所 三鷹市」と走り書きをし、翌日同僚に切々と訴えた。「いつかこの人を呼びたい！」

12年の年月が流れ、2009年のきょうされん全国大会inさいたま「記念公演 松井朝子」とあるのを見つけ駆けつけた。そこから松井さんとのメール交換が始まり、理事長・事務局長・職員等の協力があり、10周年記念公演にお呼びできることになった。昨年3月、「夢がかなう！」天にも昇るような心地で若里市民文化ホールの予約を入れた。

(後略)

土井まゆみ (ハートレター絆66号より)



当日のプログラム構成は、第一部として合唱発表と体験発表。少数精鋭で迫力ある歌声を響かせる男声合唱団「純」(友情出演)の発表では拍手と共に歓声が湧きあがった。

九年前に始まった利用者・家族・ボランティア・職員約三〇名でつくる当会合唱団は初めて本格的な二部合唱に取り組み練習を重ねて当日を迎えた。

体験発表は、「統合失調症発病後 一般就労も経験しながら、おおよそ二〇年間、絆の会の事業所を利用し、作業所以外に自分の進むべき道はないと断言していたが、そこで多くの出会いがあり、成長し、現在は介護の道へと進む」としている。

今までの道を振り返り、出会いと成長の跡をたどる」という内容。そして第2部「松井朝子のパントマイム」は着物を使ったオリジナルに新作を加え、苦しみから一筋の希望が見える『桜く祈りく春』という庄巻の芸術作品だった。その日、会場はほぼ満席となり、すべてのプログラムが終わって帰る観客の表情は感動をたたえた。

ており、松井朝子さんも公演が大成
功だった事を感じたと話してく
れた。

今アンケートの集計を急いでい
る。アンケートはびっしりと感想
を書いて下さったものが目立ち、
体験発表、男声合唱団『純』、絆
の合唱団それぞれの発表への感
想と共に涙のある感動の言葉で埋
め尽くされた。

「松井朝子のパントマイム」は
「言葉以上に伝わる」「見えない
ものが見える」「息をのんで見
入ってしまった」「動く芸術」
「きたえ抜かれた身体全体で表現
する美しい世界」「魂に訴えられ
るようで涙が出る」「こんなに心
動かされることは人生にあつたか
しらと思つたすばらしい瞬間だつ
た」それを読んでまた二十一日の
感動がよみがえる。

十六年前に「この人を呼びた
い！」と夢見たその願いはかなえ
られた。絆の会とはそういう法人
である。誰かが敷いたレールの上
を疑問も持たずに進むのではな
く、どこまでも話しあって、その
時々の最善をみんなで創りあげ
る。そして地域に発信していく。

そうやってまだ国に制度がない事
業も必要であれば赤字覚悟で進め
てきた。今回の十周年記念公演は
その絆の会の姿勢の表れだったと
私は思う。

社会福祉法人絆の会

土井まゆみ

県民シンポ開催まであと10日 高まる期待に応え、参加確認を急ごう

「賛同と参加」の返答が36団体・個人から、問い合わせ電話4件。
～長野県弁護士会名義後援、安曇野市医師会・木祖村から賛同
県会議員の参加表明5会派（自民、民主、県民クラブ、共産、無所属）

実行委員会事務局と保険医協会が発送した県民シンポへの賛同・参加案内への返答が、26日現在
36団体・個人からありました。内訳は、病院3、県的団体3、地区医師会1、各議員20、役場1、
自治体労働組合3などです。基調講演される村上弁護士の尽力あり、長野県弁護士会から名義後援の
返答、安曇野市医師会、木祖村から賛同の返答。県議からは、10人から返答があり、自民党、改革・
新風（民主党）、県民クラブ・公明、共産党、無所属改革クラブの5会派の議員から参加表明がありま
した。病院では、飯田市の西沢病院、長野市の吉田病院等から賛同の返事、県的団体では、長野県ひ
とり親家庭等福祉連合会、長野県精神保健福祉連合会などから賛同の返事がありました。また、栄村・
富士見町・南木曾町の各職員労働組合から賛同の返事がありました。

こうした、高まる期待の声に応え、各団体とも参加の確認を急ぎましょう。

＜シンポジストが確定しました＞

- *子どもを持つ親：健和会病院小児科に通院している患者の母2名（文書発言）
- 障がい者：原 孝雄さん（あずみ養護学校教諭・透析患者）
- 医療関係者：小山 奈緒さん（上伊那生協病院・医療ケースワーカー）
- 教育関係者：古澤 絵美さん（長野市川中島中学校・事務職員）
- 子ども塾関係者：児玉 典子さん（反貧困セーフティネットアルプス・相談員）

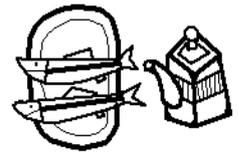


「みんなの願いは窓口
無料ニュース」より転
載しました。

あなたも、ぜひ
ご参加ください。
日程詳細は、お知ら
せコーナーをご覧下
さい。



お知らせコーナー



●●●「貧困から子どもと障がい者を守る県民シンポジウム」●●●

＝人にやさしい社会をめざして＝

日時：10月6日（日）13：00～16：00

※8月号で10月5日（土）と掲載しましたが、訂正します。

会場：松本市浅間文化センター大会議室

内容：①基調講演 講師 村上 晃弁護士

②シンポジウム・・・県推協推薦の原孝雄さん（安曇養護学校）が出ます。

コーディネーター 和田 浩（飯田市健和会病院副院長・小児科医師）

シンポジスト 当事者（障がい者・子どもをもつ親）

医療関係者（医療ケースワーカー）

教育関係者（中学校事務員）

子ども無料塾関係者（反貧困セーフティネットアルプス）

③フロアからの自由発言

主催：県民シンポジウム実行委員会

問い合わせ：福祉医療給付制度の改善をすすめる会 026-223-1281

手話通訳・要約筆記者有、臨時保育室設置

●●●県推協の2013年度県との陳情懇談会について●●●

2014年1月末頃に計画しています。会員の団体および個人のみならず、要求項目を県推協事務局にお寄せください。10月末にまとめ県に提出します。

TEL・FAX 026-264-5256

●●●市民公開講座 =いい歯と健康=●●●

日時：11月17日（日）14：00～17：00

会場：長野市生涯学習センター3階（トイゴ）

内容：①講演会 14：00～15：30

「いつまでもおいしく食べるための備え、そして食べれなくなったらどうするか？」

講師：小笠原 正先生（松本歯科大学 障害者講座）

②歯科衛生士さんによる正しい歯の磨き方 ※歯ブラシプレゼント

●●●日本福祉大学セミナー文化講演会●●●

日時：10月6日（日）13：00～14：20

会場：ホテルJALシティ長野 長野駅より徒歩7分

内容：講演会「福祉教育の広がり」と深まりー共生文化創造への途ー

講師 原田 正樹さん（日本福祉大学 社会福祉学部教授 博士・社会福祉士）

◎問い合わせ 県推協事務局まで TEL/FAX 026(264)5256
E-mail ; suishin2007@yahoo.co.jp